

府中市新庁舎建設基本・実施設計委託に 関する公募型プロポーザル審査報告書

平成27年8月

府中市新庁舎建設設計者選定委員会

府中市新庁舎建設事業は、府中市庁舎建設基本計画（以下「基本計画」という。）で示された新庁舎の基本理念である「市民に親しまれ、府中らしさを受け継ぐまちづくりの拠点となる庁舎」の実現を目指しています。

府中市新庁舎建設設計者選定委員会（以下「選定委員会」という。）は、公平かつ公正に審査を行い、設計者として新庁舎の基本理念などの府中市の基本的な考え方を理解し、柔軟かつ高度な発想力や設計能力及び豊富な経験を有する府中市の新庁舎を設計するにふさわしい者を選定しましたので、これまでの審査経過及び講評を報告します。

本プロポーザルにより、市民の共有財産であり、まちづくりの拠点となる府中市にふさわしい庁舎像を提示できたと思います。今後の庁舎完成に向けたプロセスで、市民のみなさんとの対話の中で、この提案に基づいて設計がさらに深化することで、市民から喜ばれる庁舎となることを願って止みません。

末尾となりますが、本プロポーザルでは限られた時間の中で多くの提案をいただきましたが、そのいずれも素晴らしく、質の高い提案でありました。本プロポーザルに参加いただいたすべての方に敬意を表します。

平成27年8月20日

府中市新庁舎建設設計者選定委員会

委員長 倉田直道

副委員長 田中友章

委員 赤松佳珠子

委員 桑田仁

委員 吉野誠

1 審査結果

府中市新庁舎建設基本・実施設計委託に関する公募型プロポーザルについて、選定委員会が公平かつ公正に審査をした結果、次のとおり最優秀者、優秀者及び佳作を選定した。

(1) 最優秀者

上田 克行（千葉学建築計画事務所・久米設計 設計共同体）

(2) 優秀者

古谷 誠章（有限会社NASCA）

(3) 佳作（※佳作については、受付番号順）

ア 野沢 正光（株式会社アトリエ・アンド・アイ、有限会社野沢正光建築工房設計共同体）

イ 石原 健也（デネフェス・オンデザイン設計共同体）

ウ 村松 弘治（隈・安井設計共同体）

2 講評

平成27年4月16日から5月19日までの期間に募集をしたところ、39者から参加申込があり、そのうち33者から提案書の提出があった。

1次審査では、提案書の提出があった33者について、提案の企画力、合目的性及び実現性、本業務の実施方法やスケジュール、実施体制、提案者の説得力、本業務に関する知識及び支援能力などについて、総合的な評価を行い、5者を1次審査通過者として選定した。

2次審査では、1次審査を通過した5者から提出された提案書に加え、補足資料を求めるとともに、提案者が作成した模型も用いて公開によるプレゼンテーション及びヒアリングを実施し、総合的な評価を行った。

いずれの提案者も豊富な設計実績を有する設計者であり、提案書のレベルは総じて非常に高かった。

今回のプロポーザルでは、基本計画における基本理念及び基本方針を踏まえ、府中らしい個性ある新庁舎の考え方として掲げる3つの柱及び整備方針に基づき、これらの具体化に向けた提案を求めるものであった。特にその中でも、市民等との協働を支える機能、現在地での合理的な建替、立地環境を活かし、周辺環境に配慮した、景観資源との共存を図る施設デザインなどの考え方を示し、さらには、府中市の景観資源である大國魂神社に隣接すること、府中駅と府中本町駅をつなぐ結節点としてのにぎわいを創出すること、武蔵国の国府が置かれた府中の歴史的特性とのかかわりなど、多岐にわたる要素がある中で提案を求めるものであった。また、本プロポーザルの特色として、いわゆるアトリエ系の事務所、大手の組織系事務所、そしてアトリエ系事務所と組織系事務所の設計共同体など、多様なチーム形態での参加を認めたことがあった。その結果、期待に応えた幅広い、多種・多様な提案が寄せられた。

全体としては、基本計画を踏まえ、府中駅と府中本町駅のにぎわいをつなぐことをコンセプトとするものが多かった。また、緑豊かなけやき並木と大國魂神社に隣接しているため、これらの緑をつなぐ提案も多く見受けられた。建替計画としては、仮設庁舎を活用するものが6案、仮設庁舎を用いないとするものが27案あり、また、まちなみへの配慮から低層分棟形式のものが4案あった。

公開プレゼンテーションでは、322名もの多くの方の傍聴があり、上記のような府中市の立地条件や現在地での建替手法、コンセプトを踏まえた提案に対して、多くの方の関心が示された。

それぞれの提案にはそれぞれの特色があり、周辺環境への配慮や技術的な手法、設計能力について審査することはもとより、どのような提案が府中市の庁舎として、そしてこの場所にふさわしいものであるかについても議論を重ね、最終選考に至ったものである。

3 個別講評

(1) 最優秀者 上田 克行（千葉学建築計画事務所・久米設計 設計共同体）

庁舎機能が入る「おもや」と「はなれ」、そしてその間を貫通する通路「通り庭」により周辺の環境と取り結ぶ庁舎像を提案した案である。そのコンセプトは非常に明快であり、敷地の中にまちを持ち込むように分棟型のはなれと通り庭を配置することにより建物の内部空間と半公共的なオープンスペースを連携させた都市デザイン的にも秀逸な案として高く評価された。「おもや」と「はなれ」の外観についても、少しずつ出ているところ、引っ込んでいるところがまちなみとしての表情をつくっており、上手なヒューマンスケールとなっている。

また、軒下空間、皮下空間として場所をうまく創るとともに歴史あるまち府中の特色を引き出しており、現代の宿場町としてのコンセプトが目をはいている。

通り庭については、広場をただの広場とするのではなく、府中駅と府中本町駅をつなぐ結節点として通り抜けられる空間とし、庁舎内の機能と建物内外の市民のアクティビティを両立させる巧みな仕掛けとなっており、また、比較的大きなオープンスペースとしても使うことができるので、災害時の拠点としての活用にも適した提案となっている。

他の案に比べると、今後設計を深化させ工事へと進む過程でコンセプトを崩さずに必要な変更に対応できる巧みな案であるとの意見もあった。

また、比較的高層の「おもや」を1期工事部分となる北側に配置することにより、仮設庁舎を用いることなく1回の引越しで庁舎機能を移転することが可能で、その後の工事も含めて優れた建替計画を提案している点を評価する意見が複数あった。さらに、構造についてもプレストキャストコンクリートの採用などを含めて検討されているため、工事費の見通しの付き難い建替時期においてもコントロールし易い点を評価する意見もあった。本案はアトリエ系事務所と組織系事務所のチームによる提案であるが、今後のプロセスで双方の長所を活かした発展可

能性を期待し評価する意見もあった。

今後の課題としては、外装材の有孔パネルの素材や色彩について、周辺の景観との関係性への配慮が挙げられた。この点は、現提案の時点で詳細に議論することは時期尚早であり、今後設計が深化する段階でふさわしいものとなるよう検討することが求められる。また、「通り庭」にはけやきの植栽が提案されているが、その将来の生育などについても懸念が示され、樹種の選定や配置について更なる検討が必要であるとの指摘があった。これらの懸念は、今後の対話による設計の中で検討され、よりよい設計案へ発展させることが期待される。

府中市の、そしてこの場所にふさわしい庁舎となるよう市と協議し、よりよい案としてまとめられることを期待したい。

(2) 優秀者 古谷 誠章 (有限会社NASCA)

府中市のまちの成り立ちや特性を深く理解し、それらを尊重した上で新しい庁舎像を提案した案であり、多面的に要件をよく理解し、それらに配慮して設計された提案として、設計者の姿勢も含めて、高い評価を受けた。

府中駅から来る人の流れを曲面のファサードを持つ建物とその前の広場で受け止め、一方の府中本町駅から来る人の流れをU字型に配置した建物の下の大きな空間で受け止めることにより、府中駅と府中本町駅をつなぐ特徴的な庁舎像を提案している。また、市民利用に供する機能を大國魂神社側のボリュームを抑えた低層部に配し、緑豊かな大國魂神社の環境と融和した提案となっている。

単調になりがちな執務空間を、少しずつらしながら配置し、吹き抜け空間をつくり風が抜けるようにしているところにも工夫が感じられた。

課題としては、他の提案と比べると、通り抜ける空間を内部化してしまっているため、閉庁時や災害時の利活用の柔軟性に懸念を示す意見があった。また、3期にまたがり建設される庁舎が大空間で連続しているため、法制度に照らした区画の設定方法について心配する意見もあった。

さらに、建替計画としてはフェーズが3つに分かれており、北側街区に配慮して大きなボリュームを南側に配置しているため、2期工事完成まで庁舎機能の完全移転に制限がある点を懸念する意見もあった。また、建物を区分して工期を設定しているため、施工的には多少の工夫が必要になるなどの課題もあると考えられた。

(3) 佳作 (※受付番号順)

ア 野沢 正光 (株式会社アトリエ・アンド・アイ、有限会社野沢正光建築工房設計共同体)

全体を低層としていることに加えて自然採光や通風の取込みなどパッシブな手法を最大限活用し、さらに最新のアクティブ技術を組み合わせることで、全体として高いレベルで環境配慮を行なっている先進的な提案として高く評

価された。また、中央を貫通するように設定されたパサージュの空間が印象的で、いろいろな活動が見え隠れするように設計されている点も新しい庁舎像として評価された。

執務空間を2階にも展開し、スロープで人をあげるというアイデアについては、可能性を評価する意見がある一方で、スロープがかなりの大きさとなるため、その利用の範囲や柔軟性という意味では疑問を呈する意見もあった。

また、低層にすることに注力されているために、2次審査に進んだ5案の中では最も建築面積が大きい案であり、大きなスロープに占有されている屋外空間の他には敷地内のオープンスペースがほとんどなく、災害時における利用などを懸念する意見や多様なアクティビティを受け止めるフレキシビリティの不足を懸念する意見があった。また、低層ではあるものの、ほとんどセットバックなく北側に長大な壁面があることから、隣接する街区への影響を懸念する意見があった。

さらに、建替計画の上で2期工事を東側と西側から同時に行なうことの影響を懸念する意見があり、全体工期としても市の想定より長くなってしまっている点も課題とされた。

イ 石原 健也（デネフェス・オンデザイン設計共同体）

活発な市民活動、協働を担う場としての「まちのワークプレイス」を提案しており、ソフトを含めた提案として非常にオリジナリティがあり、次世代の庁舎の1つの姿を提示している案として高く評価された。また、参加型・実践型のまちづくりの実績も勘案され、プレゼンテーションの評価は極めて高かった。加えて、ローリング中のリードタイムを活用してプロジェクトルームやギャラリーの活用・運営の主体をつくり・育むためのまちづくりの方法を含めた提案については、ハードとソフトが絡み合う多数の提案メニューの実現性に懸念が示されたが、その考え方には参考にするべき点が多いとの指摘があった。

一方で、建替計画については仮設庁舎の建設位置や時期、ローリングの順番などについて多くの委員から懸念が示され、施工の実現性に対しては多くの課題があると考えられた。

また、1次審査を通過した5者のうち、唯一の仮設庁舎を活用する案であったが、全体的な配置計画として仮設庁舎を活用するメリットが活かしきれていないとの指摘があった。加えて、府中街道側に建設される立体駐車場の景観面での課題や庁舎全体の清掃、維持管理等の管理運営上の課題もあるとの意見があった。

さらに、デザイン的に相当つくりこまれているため、逆に長期的にみて空間利用が変化した場合のフレキシビリティへの懸念や災害時の物資搬入・展開などの利用などの課題も指摘された。

ウ 村松 弘治（隈・安井設計共同体）

敷地中央に配置した高層棟の低層部に雁行する空間として「市民のえんがわ」を配置し、屋外の「こもれび広場」と組み合わせて構成した案である。学ぶ、発信する、交流するなどのゾーニングコンセプトは明確で、「こもれび広場」と建物内部とのつながりもよく考えられており、プランニングや施工上の実現性も高く、提案としての完成度が非常に高い案として評価された。

一方で、高層棟タイプが府中市にふさわしい庁舎として最適かどうかについては議論が交わされ、疑問を示す意見が複数あった。また、頂部のデザインや西側を含めたファサードの意匠などは分かりやすいデザインではあるが、府中市のこの場所でのみ成り立つ案ではないとの意見があった。

また、1期工事で高層棟を建設し、主要な庁舎機能を移転できる建替計画を評価する意見があった一方で、低層階に市民活動、市民サービスエリアを配置し、高層階に執務空間を配置するという構成は、わかりやすい反面、執務空間と市民のための空間の関係においては、オーソドックスな庁舎像に留まっているとの意見もあった。また、執務空間は一般的なオフィス空間となっており、中央部への採光などを含む、庁舎における執務空間として少し工夫が必要ではないかと指摘があった。

4 審査経過

(1) 1次審査（平成27年7月6日）

ア 応募状況等の確認

(ア) 参加表明者数 39者

(イ) 提案書提出者数 33者

イ 審査要領等の確認

ウ 選定方法について協議

エ 審査

審査要領に基づき、評価基準に基づく評価及び意見交換を踏まえ、投票のうえ、総合的な評価にて1次審査通過者5者を選定した。

なお、1次審査においては応募者名を伏せたまま審査を行い、その過程においては各委員の過半数の支持を得ることを原則とした。

1次審査における投票の結果については別表「1次審査投票結果一覧」のとおり。

(ア) 1次選考

各委員10案に投票した結果に基づき議論し、14提案が通過した。

(イ) 2次選考

各委員5案に投票した結果に基づき議論し、3票以上だった4提案が1次審査通過者として決定した。また、2票以上だった3提案を通過とし、3次選考を行うこととした。

(ウ) 3次選考

2次選考を通過した3案で決戦投票が行われ、3票入った提案が1次審査通過者として決定した。

(エ) 次点選考

1次審査通過者として5者を選考した後、1次審査通過者に辞退が出た場合などの不測の事態を考慮し、3次選考で同票だった2提案について投票を行い、1次審査における次点を決定した。

別表「1次審査投票結果一覧」

NO	整理番号	1次選考	2次選考	3次選考	次点選考	備考
1	042301	3	1			
2	050801	0				
3	051401	0				
4	051402	0				
5	051502	2	0			
6	051801	2	3	—	—	1次審査通過
7	051802	0				
8	051803	5	2	1	2	
9	051805	2	1			
10	051807	1				
11	051808	1				
12	051809	2	1			
13	051811	3	2	3	—	1次審査通過
14	051812	2	0			
15	051813	1				
16	051901	2	1			
17	051902	0				
18	051905	3	3	—	—	1次審査通過
19	051906	0				
20	051908	4	5	—	—	1次審査通過
21	051909	0				
22	051910	4	2	1	3	1次審査次点
23	051911	3	0			
24	051912	1				
25	051913	0				
26	051914	1				
27	051915	5	4	—	—	1次審査通過
28	051916	1				
29	051917	0				
30	051918	0				
31	051919	1				
32	051920	1				
33	051921	0				

(2) 2次審査（平成27年7月26日）

ア 審査要領等の確認

イ 審査

審査要領に基づき、評価基準に基づく評価及び意見交換を踏まえ、投票のうえ総合的な評価にて、最優秀者、優秀者及び佳作を選定した。なお、選考の過程では各委員の過半数の支持を得ることを原則とした。

2次審査における投票の結果については別表「2次審査投票結果一覧」のとおり。

(ア) 公開プレゼンテーション・ヒアリング

1次審査通過者5者に対して、提案者によるプレゼンテーション及び選定委員による質疑を公開で行った。

来場者は322人、会場内に応募のあった全ての提案書を展示した。

a 審査順（当日抽選により決定）

- ① 古谷 誠章（NASCA）
- ② 上田 克行（千葉学建築計画事務所・久米設計 設計共同体）
- ③ 石原 健也（デネフェス・オンデザイン設計共同体）
- ④ 村松 弘治（隈・安井設計共同体）
- ⑤ 野沢 正光（アトリエ・アンド・アイ、野沢正光建築工房 設計共同体）

(イ) 最終審査

a 1次選考

各委員2案に投票した結果に基づき議論し、2提案が通過した。

b 2次選考

各委員1案に投票し、最優秀者、優秀者を決定した。

別表「2次審査投票結果一覧」

NO	提案者	1次選考	2次選考	備考
6	古谷 誠章（NASCA）	4	1	優秀者
13	野沢 正光（アトリエ・アンド・アイ、野沢正光建築工房 設計共同体）	0		佳作
18	石原 健也（デネフェス・オンデザイン設計共同体）	0		佳作
20	村松 弘治（隈・安井設計共同体）	1		佳作
27	上田 克行（千葉学建築計画事務所・久米設計 設計共同体）	5	4	最優秀者

5 選定委員会の開催経過

(i) 第1回選定委員会

ア 日程 平成27年4月14日

イ 出席委員 5名（50音順）赤松委員、倉田委員長、桑田委員、
田中副委員長、吉野委員

ウ 議題

(7) 委員長及び副委員長の選出

委員長に倉田委員、副委員長に田中委員を選出した。

(4) 募集要項について

府中市新庁舎建設基本・実施設計委託に関する公募型プロポーザルにおいて、設計者を募集するための募集要項について定めた。

(7) 審査要領について

府中市新庁舎建設基本・実施設計委託に関する公募型プロポーザルにおいて、設計者を選定するための評価基準などを定めた審査要領を定めた。

(2) 第2回選定委員会

ア 日程 平成27年7月6日

イ 出席委員 5名（50音順）赤松委員、倉田委員長、桑田委員、
田中副委員長、吉野委員

ウ 議題

(7) 1次審査について

提案書の提出のあった33者について、1次審査を行い、1次審査通過者として5者を選定した。

(4) 2次審査について

a 補足資料について

2次審査で使用する新たな資料として、工期を含む建替計画のより詳細な考え方、大規模な建替に伴い法規的な制限とその対応に対する考え方などを記載したものを求めた。

b 2次審査の内容について

公開プレゼンテーションの概要について定めた。

(3) 第3回選定委員会

ア 日程 平成27年7月26日

イ 出席委員 5名（50音順）赤松委員、倉田委員長、桑田委員、
田中副委員長、吉野委員

ウ 議題

(7) 2次審査

2次審査参加者5者に対して、2次審査として公開プレゼンテーション及びヒアリングを実施した後、非公開により審査要領に基づき審査を行い、最優秀者、優秀者及び佳作を選定した。

(4) 講評について

本プロポーザルの選定結果について講評を行い、その公表について協議した。

6 公募型プロポーザルの経緯

時期	項目
平成27年4月14日(火)	第1回選定委員会
平成27年4月16日(木)	募集要項等の公表
平成27年4月23日(木)	現場説明会の開催(39社69名)
平成27年4月30日(木)	質問受付期限
平成27年5月15日(金)	質問の回答
平成27年5月19日(火)	参加申込書・誓約書提出期限(39者)
平成27年5月28日(木)	提案書提出依頼
平成27年6月17日(水)	1次審査提案書提出期限(33者)
平成27年7月6日(月)	第2回選定委員会(1次審査)
平成27年7月7日(火)	1次審査結果通知
平成27年7月21日(火)	2次審査書類提出期限
平成27年7月26日(日)	第3回選定委員会(2次審査、プレゼンテーション・ヒアリング)
平成27年7月27日(月)	市長への審査結果の報告 2次審査結果通知
平成27年8月20日(木)	市長への審査経過及び講評の報告